



祖母の介護がきっかけ

「利用者が安全に施設を利用できるように心掛けています」と話す中谷さん。

介護士として働こうと思ったのは、中学生のときに母親とともに祖母の介護をしたことがきっかけといいます。北海道介護福祉学校時代にガーデンハウスくりやまのアルバイトで感じた仕事場の雰囲気、温かさ、この職場を選んだ一つ。「利用者の方に『やさしい人だね』と言われるようになった」とみんなを明るくする介護士を目指し日々頑張っています。

介護のプロとして

主な仕事は、入浴介助やトイレ誘導などですが、北海道介護福祉学校時代の実習とは違い、覚えることも多く大変なようです。働き始めたばかりということもあり、緊張で



なかやゆうた
中谷祐太 さん (20)
ガーデンハウスくりやま
北海道介護福祉学校卒



施設利用者と運動をしている様子。近くの方に声かけするなど、目配り気配りを欠かしません。

利用者から「やさしい人」と言われるように

夜も眠れない日があったと話していました。

しかし、高校の時に弓道で全国大会に出場した経験のある中谷さん。常に高い意識をもって練習や試合に挑んでいた経験が活かされているようで「『介護のプロ』という気持ちで頑張ります」と熱い思いを語ってくれました。

「利用者の方が笑顔で接してくれるとやりがいがあります」と日々の利用者の方との関わりを大切にすることで、素晴らしい褒美をいただいているようです。

特集 キラリ **新** 社会人

—「くりやま」で働く若者のエピソード—

この春から期待と不安を胸に、
ふるさと「くりやま」で働く
新社会人の皆さん。

都会に憧れ、
地元から離れる人も少なくない中、
くりやまで働こう！と
瞳を輝かせています。
慣れない仕事に苦勞しながらも、
ひたむきに仕事に励む5人。
社会人となった一人ひとりに
胸に秘めた思いを聞いてみました。



仕事に慣れて一人前の仕事 ができるように

まちに貢献したい

「仕事を楽しいと思うときもあるし、苦しいというときもあります。初めてのことでわからないことだらけですが、しっかりと教えてくれる先輩方がいてありがたいです」と話す古田さん。

地元で働く決め手となったのは、育ってきた栗山町に少しでも貢献したいという思い。「早く仕事に慣れて、一人前の仕事ができるようになります」と日々頑張っています。



ふるた かい 古田 海さん (19)
小室電機株式会社
栗山高等学校卒



分電盤の組み立てをしている様子。配線から組み立てまでを一人で行う姿は格好よく見えました。

礼儀を大切に

「まだ今は住宅の配線、分電盤の組み立てなどのお手伝いしかできませんが、一生懸命勉強しています。現場では多くの方と接することがあるので、しっかりとあいさつするようにしています」と古田さん。小学生の時から野球に打ち込んでいたこともあり、礼儀と何事にも一生懸命に取り組むことを意識しています。

「栗山町は静かで、地域の人もやさしくしてくれます。とても住みやすいまちだと思います」と栗山町の印象を語ってくれました。生まれ育ったまちで就職した古田さんは、これからより住みやすいまちにするために新たな人生を歩み出しています。

最後に今やりたいことはと聞くと「体を動かしたいです」と笑顔で話してくれました。



仕事をしっかり覚えて 頑張っていきたい

歯科助手として

栗山高等学校から就職した川田さん。高校の時は「生活と福祉」の科目を選択して、お年寄りとの交流、視覚障がいや盲導犬の学習、北海道介護福祉学校での介護体験実習などを経験してきました。

「専門的な言葉や特殊な器具の名前もあり、覚えることがあって大変です」と学校での経験とは違う歯科助手という仕事にまだ慣れていない様子。

南川先生の助手や歯科器具の洗浄などをしている今、衛生面と体調管理に気をつけ「風邪をひかないことと、爪はのばさないようにしています」と話してくれました。

体調管理に気をつける

川田さんは、小学1年生のときからそろばんを習いはじめ、中学生になる年に初段



かわたみずき 川田瑞希さん (18)
南川歯科医院
栗山高等学校卒

中学3年生で3段を取得。暗算も高校1年生の時に5段を取得したそうです。

これから事務の仕事もするようになるので資格が生かせるのではと聞くと、「事務系の仕事もしてみたいと考えていたので、そういう仕事があれば」と笑顔をのぞかせていました。

最後にこれからの目標を聞くと「教えられたことをしっかりと覚えて頑張っていきたいと思います」と話してくれました。



歯科器具の手入れをしている様子。就職して日が浅いこともあり、まだ緊張しているようでした。



いろいろな仕事を経験

生まれも育ちも栗山町という田中さん。

「地元で就職がなかった」と、高校卒業後は栗山興産株式会社に入社。そして、中学・高校と野球部で一緒だった渡邊匡哉さんとともに、一人前の仕事ができるように日々努力しています。

今は、クリドレンダブル管のソケット付けやホタテの養殖用ネットの梱包など、いろいろな仕事をローテーションで経験しています。

「初めてやるのがたくさんあって、覚えるのが大変です。けがにも気をつけなければなりませんし、慣れていない仕事なので時間もかかります。先輩方とコミュニケーションをとりながら頑張っていきたいと思います」と話してくれました。

そして「早く仕事を覚えて、



たなかとしき
田中理葵 さん (18)
栗山興産株式会社
栗山高等学校卒



住みやすいまち、栗山

地元で働こうとした決め手の一つは、栗山町には明るい人が多く住みやすいこと。スポーツが好きな田中さんは、自宅のバスケットゴールでシュートをしながら気分転換しているそうです。住み慣れたまちでの活躍を大いに期待しています。

機械の動きを確認している様子。渡邊さんとともに真剣なまなざしでチェックをしていました。

気持ちに余裕をもって 仕事ができるように



わたなべまさや
渡邊匡哉 さん (18)
栗山興産株式会社
栗山高等学校卒



クリドレンダブル管の巻きつけ作業をしている様子。けがをしないように慎重に仕事をしていました。

ゼロからのスタート

「社会人としてゼロからのスタートなので、覚えることがたくさんあり、苦労しています」と話す渡邊さん。

高校を卒業後、栗山興産株式会社に勤務。今はさまざまな仕事を経験しています。

「大型で特殊な機械などが多く、けがには気をつけています。クリドレンダブル管（ポリエチレン製の排水管）をローラーに巻きつける作業をしているので、手をはさまないように集中力を切らさず

作業をしています」と話してくれました。

地元に恩返し

栗山町で働く決め手は、地元愛。「育ったまちで恩返しできれば」と思いこの仕事を選んだそうです。生まれも育ちも栗山町で、「人もいいし、空気もきれいで、とても良い環境」とふるさと栗山を感じているようです。

これからの目標を聞いてみると、「先輩方の姿を見て、たくさん仕事を覚えたいです。そして、早く仕事を覚えて、今まで親に迷惑をかけた分、恩返しができればと思っています」と力強い言葉が聞かれました。

渡邊さんは「はじめの一步」を踏み出したばかり。これから苦労もありますが、ふるさと栗山、そして親への「恩返し」を期待しています。



育ったまちに、そして親に 恩返しができるれば